

次世代プロジェクトマネージャはCAPM(R)から！

～PMの育成をしているのに失敗プロジェクトはなぜ減らないのか～

【アンケート】 PM 育成とCAPM(R)

セミナー受講者に対し、PM 育成とCAPM(R)に関するご意見を、アンケート形式で伺いました。

本セミナーの出席者は、「若手 PM の育成」というテーマに関心のある、人材育成担当者およびプロジェクトマネージャが中心ですが、本セミナーの主題でもある CAPM(R)資格について多くのご意見を頂戴しました。以下に、その集計結果をまとめます。

調査日：2007年11月19日

調査対象：「次世代プロジェクトマネージャはCAPM(R)から！」無料セミナー出席者

(人材育成担当者、プロジェクトマネージャ、エンジニア)

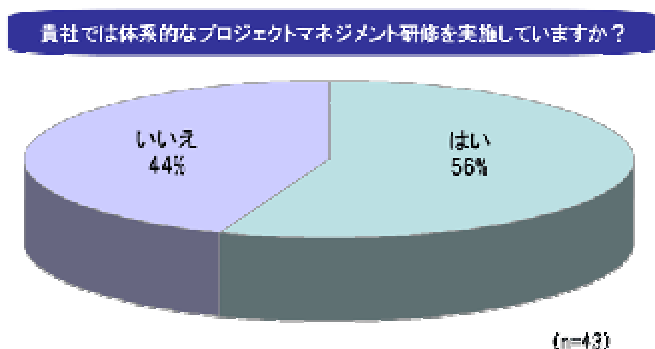
有効回答数：43

アンケート形式：記入式(選択式及び自由回答)アンケート

【1】貴社では体系的なプロジェクトマネジメント研修を実施していますか？

過半数が「実施している」という回答でした。

半数弱では「実施していない」という結果になりましたが、この場合、個別に研修を受講するか、あるいはプロジェクトマネジメントを実施するにあたり個々人の経験に依存しているということになると考えられます。



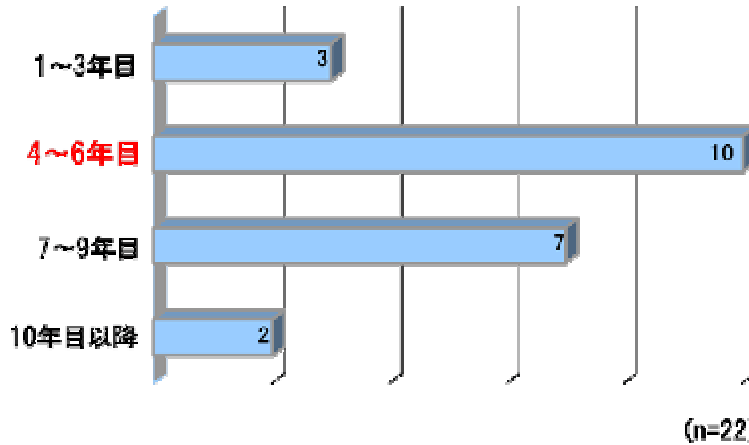
【2】入社何年目の社員を中心に、プロジェクトマネジメント研修を実施していますか？

上記1で「実施している」と選択された方にご回答いただいています。

「4～6年目」というご回答が最も多く、続いて「7～9年目」という結果になりました。

現状の育成プロセスとして、3年から6年の現場におけるプロジェクトメンバ(プログラマ、SE等)としての経験を経て、プロジェクトマネジメントの研修を実施するのが一般的であるとの見方ができます。

入社何年目の社員を中心に、プロジェクトマネジメントを実施していますか？



上記は体系的なプロジェクトマネジメント研修を行っている場合のご回答です。では、体系的なプロジェクトマネジメント研修を行っていない場合にはどのように PM の育成を行っているのでしょうか？質問 1 で「実施していない」と回答された方のご意見で、次のようなものがありました。

「年功序列で PM になってしまうような感じなので、きちんと知識を身につけてステップアップしてほしい」「PM がやっていることを若手がイメージできていない。いきなり PM をやって経験から学ぶ形になるので、失敗のリスクが下がらない。」

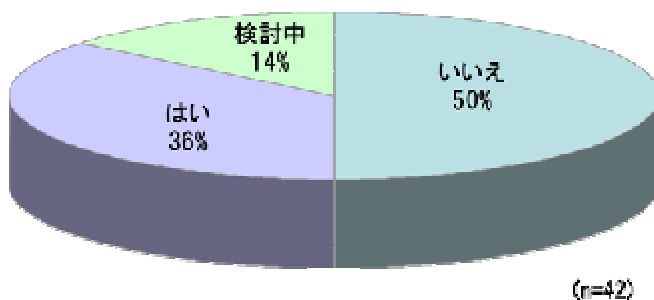
プロジェクトメンバに必要な知識や技能と、プロジェクトマネージャに必要な知識と技能は、必ずしも一致しません。メンバとしての経験の延長線上にプロジェクトマネージャが据えられていることの問題が、こちらのご意見からうかがい知れます。

[3] プロジェクトマネージャの育成において、PMP(R)の資格取得を推奨されていますか？

ちょうど半数が非推奨、3割強が推奨、残る1割強が検討中でした。

PMP(R)の受験費用は\$555 と比較的高額であることで知られます。また、PMP(R)資格維持のためには、PDU(Professional Development Unit)を 3年間で 60ポイント獲得する必要があり、ランニングコストがかかるのも特徴です。プロジェクトマネージャの育成に力を入れている企業においても、PMP(R)の資格取得を全面的にバックアップしているところはまだまだ多くはないようです。

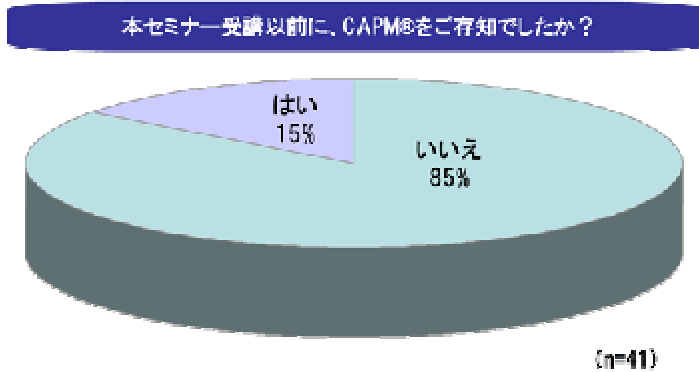
プロジェクトマネージャの育成において、PMP®の資格取得を推奨されていますか？



【4】本セミナー受講以前に、CAPM(R)をご存知でしたか？

8割超が「知らなかった」という回答になりました。

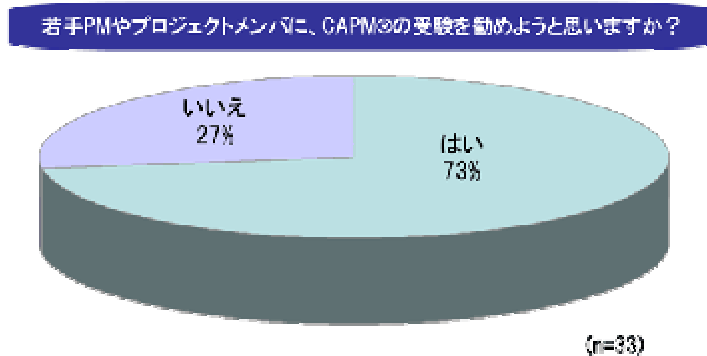
若手PMの育成に関心の高いセミナー出席者の皆様におかれましても、CAPM(R)の認知度はまだまだ低いということがわかります。



【5】若手PMやプロジェクトメンバにCAPM(R)の受験を勧めようと思いますか？

上記4で「いいえ」と選択された方にご回答いただいています。

資格試験としての認知度自体は低いものの、CAPM(R)をご存知なかった方の4人に3人が、セミナーを通じて「若手PMやプロジェクトメンバにCAPM(R)の受験を勧めたい」と考えています。



「はい」と選択された方に理由を伺いました

基礎力のアップに役立つそうだから

PMの考えを、プロジェクトメンバが知ることは大切であると思う

きっかけにしたい

その者の将来のために

PMPよりもハードルが低いという印象だったので

現在、技術寄りの教育に注力しすぎている為、プロジェクト参画意識が弱い気がするため

自分が受験しようと思った

PMPより受験条件がたやすくなっているため

PMP資格の取得よりもPMBOKの学習を推進したいため

検討します。

情報処理(試験)以外に資格取得意欲/動機づけをさせたい

基礎知識の理解度を把握

勧めたいと思うけれど、どちらかというとベンダー側の立場で必要なものかと思いました。

PMPよりハードルが低い、かつ全員の知識UPが図れると考える為

年功序列でPMになってしまうようなかんじなので、きちんと知識を身につけてステップアップしてほしい

「いいえ」と選択された方に理由を伺いました

コスト...

まだ様子を見たい。悪いものではないと思います。

\$300は高いかも、会社補助がないと厳しいが、位置づけ的に承認をとるのが難しそうです

PMの考え方を重要視していきたいように、現時点では考えているから

実際の業務に役立たないため

初級PM向け研修コースで足りると思われる

「はい」とお答えいただいた方のご意見は、以下の2点に大別できます。

若手PMおよびプロジェクトメンバがプロジェクトマネジメントを学習する動機づけになるため

PMP(R)より受験のハードルが低いため

資格取得が主体になるのは育成という本来の目的から外れますが、育成対象者の学習に対する動機付けや、知識取得のエビデンスのために、資格取得は一つ的手段として評価できると考えられているようです。その点において、PMP(R)取得をプロジェクトマネジメント学習のマイルストーンに据えるには、前掲[3]の解説でも挙げたように、費用面、また受験前提などの問題でハードルが高いと判断されるのでしょう。

【まとめ】若手PMの育成には、CAPM(R)資格取得がオススメです

CAPM(R)資格は、PMBOK(R)に基づくプロジェクトの共通言語の知識固めに役立ちます。若手PMのみならず、プロジェクトメンバ、ITセールス、顧客側の担当者、経験あるPMにも、推奨できる内容です。しかし、中でもとりわけ、新入社員や入社3年次社員の方に、CAPM(R)の資格取得を含めた、プロジェクトマネジメント知識体系の習得を推奨できます。

「若手の育成に初級のプロジェクトマネジメント研修を導入したいが、プロジェクト経験がないために参加者の目的意識が低く、期待する効果が得られないような気がする」と思われるかもしれません。これはおそらくその通りです。成人学習においては、学習者は一人ひとりのバックグラウンドにある経験

をもとに学習を進めることが多いですが、新入社員や若手などこの「経験」がそもそも不足している場合、成人学習の原理原則が適用されないことが往々にしてあります。しかし、学生生活の「経験」から、多くの若手は試験勉強では優秀な成績を修めることに長けています。そうしたことを鑑みると、資格取得自体は手段ですが、その先にある「知識の習得」をゴールと考えると、学習意欲に貢献する動機づけになると思われます。